

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成27年11月12日 (2015.11.12)

【公開番号】特開2015-169014(P2015-169014A)

【公開日】平成27年9月28日 (2015.9.28)

【年通号数】公開・登録公報2015-060

【出願番号】特願2014-45291(P2014-45291)

【国際特許分類】

E 0 1 C 19/34 (2006.01)

【F I】

E 0 1 C 19/34 A

【手続補正書】

【提出日】平成27年9月23日 (2015.9.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

図 7 に示す従来の起振軸カバー 4 2 は、起振体 2 のハウジング 2 a に取付けているので、起振体 2 の振動に伴って振動する。このため、起振軸カバー 4 2 には高い剛性が要求されると共に、ハウジング 2 a に強固に固定する必要がある。この起振軸カバー 4 2 は、ベルトカバー 2 0 の内側カバー 2 1 との接触により摩耗するため、定期的に交換する必要があるが、前述のように、起振軸カバー 4 2 は剛性が高くかつハウジング 2 a に強固に固定するため、交換が容易ではないという問題点がある。また、起振体 2 が振動しても、内側カバー 2 1 の開口部 2 1 b が露出しないようにするため、起振軸カバー 4 2 は内側カバー 2 1 の開口部 2 1 b より振動分を考慮した半径方向の幅 $t \times$ だけ大きな径を確保しなければならず、起振軸カバー 4 2 が大型になるという問題点がある。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 2】

この構成において、ベルト 1 3 の交換が必要となったときには、ボルト 2 8 , 3 0 を外すことにより、外側カバー 2 2 を内側カバー 2 1 およびエンジンベース 3 から取外す。そして、転圧板 1 の前端部を地面に着け、後部を浮かした状態でハンドル 1 6 を押し下げると、転圧板 1 とエンジンベース 3 との間を結合している防振ゴム 7 が撓むことにより、駆動プーリ 1 1 と従動プーリ 1 2 との間の距離が短くなり、ベルト 1 3 が弛んでプーリ 1 1 , 1 2 からベルトを取外すことができる。また、新品のベルト 1 3 を取付ける場合も、前述のように転圧板 1 の後部を浮かした姿勢としてプーリ 1 1 , 1 2 に掛け回す。このように、ベルト 1 3 の交換の際には、内側カバー 2 1 をエンジンベース 3 に取付けたままで、外側カバー 2 2 を着脱するだけでベルト 1 3 の交換ができる構成となっている。